

飛 騰

第3号



海援隊旗

就任ご挨拶



副館長 結 城 利 雄

私は、平成2年3月高知県監査委員事務局長を最後に、県庁を退職し、本年7月から当坂本龍馬記念館でお世話になることとなりました者でございます。

今回この坂本龍馬記念館にとのお話を頂きました時に、私の頭の中を横切ったことがありました。それは、6～7年前まだ県庁在職中のことでしたが、帰宅途中のバス停留所での出来事でした。関西ナンバーの中年ご夫婦の乗った自家用車の中から「お尋ねいたしますが、坂本龍馬のお墓は、どこでしょうか」と、高知市内地図を示してのお尋ねでした。「ハイ」といって、示された地図を眺めつつ、さて、どこだったかなー市内のどこかに有るはずだがと、必死で思い浮かべようとしましたが、どうしても頭の中に浮かんでまいりません。しまった、今迄龍馬のお墓については、見たことも、聞いたことも無

いのだ。要するに、もともと龍馬のことは、何も知らんのだと、問われて初めて気が付きました。途端に羞恥をおぼえ、血は昇り、顔を赤くして「すみません、私は、その場所を知らないのです」といって早々と退散したことでした。

このように、坂本龍馬については、具体的な事は、何一つ知らず、ただ土佐の生んだ偉大なる人物であるという通り一辺の知識しか持ち合わせていない私に、はたして勤まるだろうか、お役に立つ事ができるだろうか、大変不安でございました。その反面、高知の名所桂浜公園の中で、緑の樹木に囲まれた小高い浦戸城跡に、黒潮躍る太平洋を見おろし、天と地が一つとなる水平線の彼方に向かって、「坂本龍馬ここに在り」と、いっているかのように立つ建物を思い浮かべた時に、ここに勤めることのできることを大変嬉しく感じたことでした。

坂本龍馬記念館は、これの建設に日夜ほんそうされた実行委員会の方々の血と汗の結晶であると承知しております。

今後は、県及び文化財団、実行委員会の皆様のご指導を受けつつ、設立の主旨、目的に添うよう努力してまいります。



お持ち帰り用 龍馬関係資料

学芸専門員 下元正清

当館では、坂本龍馬関係の資料を作成（現在8種類）し、書架に置いてお客様に自由にお持ちいただくようにしている。

これはB5判の更紙に印刷した手作りで、お客様の龍馬についての理解にお役に立てばという願いから作った、オリジナルなものである。

① 坂本家・才谷屋家系図

当館地下2階の資料展示室に標記の自作パネルを展示しており、その前にはいつも人だかりがある。特にお客様の、龍馬の後裔こういについての関心は深いものがある。

これは山本大先生の「坂本竜馬」、土居晴夫先生の「坂本龍馬とその一族」の巻末にある系図を参考にして作ったものである。

お持ち帰り用のこの資料は、前述のパネルの原稿の縮小版である。

② 「入館券」に記された坂本龍馬の字

当館の入館券に印刷された坂本龍馬の字には、次のようないわれがある。

龍馬は文久元年10月14日、国暇くにひまを頂いて、剣術修行のために丸亀の矢野市之丞の道場へ行く。先ず柴巻（高知市）の田中良助の所へ立ち寄り、金2両を借用した。

龍馬は後に国暇の1箇月延長を許され、ひそかに長州の萩を訪れて、武市半平太から託された親書を久坂玄瑞に渡したのである。

この金2両の借用証に書かれた龍馬の署名を、当館入館券のデザインに使ったものであるが、これを書いた時の龍馬の心中は、さぞかし感慨深いものがあつたにちがいない。

③ 幕末の青春群像

明治維新という大きな歴史の流れを作り出したのは、龍馬や西郷隆盛、高杉晋作ら勤王の志士であった。また彼らの前面に立ち、彼らの行動を制止しようとしたのは、近藤勇ら佐幕派の武士であった。

彼らは皆若く、おのれの信念に従って行動し、ある者は志半ばにして斃れ、ある者は生き延びて明治政府に出仕し、日本の近代化に貢献した。

④ 「小間目」は「古間目」では

1階メイン展示室の第3「土」のステージには、本県の立体模型があり、それには龍馬脱藩の道が点灯装置で示されるようになっている。

この立体模型には、当時の地名を記したプレートが多数立っている。その中に小間目こまめ、天地あまて、小尽こぢん等があるが、これらは現在、古満目、安満地、小筑紫というように表記される。それらを歴史的に解説したのが、この資料である。

⑤ 「京都丸山公園

坂本龍馬・中岡慎太郎像の銘

この銅像の台座の正面にある銘の全文と、背面のプレートに記された製作者等の名前を、実地に調査して作ったものである。

⑥ 坂本龍馬が心を許した2人の武士

—— 全文次頁 ——

⑦ 幕末維新における志士の変名

この時代、土佐・長州・薩摩・水戸等各藩の勤王派志士の中には、幕府や新選組等の追及を避けるため、また複雑な藩内事情もからみ、変名を用いて国事に奔走した。

⑧ 土佐勤王党

幕末の土佐藩を語る時、土佐勤王党を抜きにして語ることはできない。このプリントには、土佐勤王党の盟約書や概要について説明し、吉村虎太郎や龍馬等の脱藩にも言及している。

坂本龍馬が心を許した2人の武士

平成4年8月9日
坂本龍馬記念館

—— 長府（長州）藩三吉慎蔵と土佐藩溝淵広之丞 ——

龍馬の交友関係は広く、土佐藩はもとより勤王諸藩、幕府、会津藩にまで及んでいる。それは、龍馬の懐の深さを表すとともに、維新回天の大業を遂行するためには、必要欠くべからざることという認識を持っていたからだろう。

その広い交友の中で、彼が最も信頼し、気のおけない兄貴に対するような態度で接したのは、長府の三吉慎蔵と土佐の溝淵広之丞ではなかったかと推測する。

	三 吉 慎 蔵	溝 淵 広 之 丞
在 世	天保2～明治34（1831～1901） （龍馬より4歳年長）	文政11～明治42（1828～1909） （龍馬より7歳年長）
龍馬との 主な関わり	<ul style="list-style-type: none"> 慶応2年1月23日の夜京都寺田屋で、龍馬と一緒にいるところを幕吏に襲われる。慎蔵は得意の槍で防戦する。 龍馬は慎蔵に亀山社中の窮状を訴える。 （慶応2. 7. 28付 書簡） 龍馬万一の時は、妻を国元から家僕や老婆が迎えに来るまで預かって欲しいと依頼。 （慶応2. 5. 8付 書簡） 龍馬死後、慎蔵は律義にも、龍馬の妻龍を3カ月預かる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文久2年龍馬がはじめて剣術修行のため江戸へ出た時、同行した。この時龍馬との友情が生まれる。 慶応2年、藩命により砲術修行のために長崎へ行った時、龍馬と会う。龍馬の国を思う心を知って喜ぶ。 （龍馬、慶応2. 11付 書簡） 広之丞はこれを福岡や後藤に伝え、龍馬の脱藩赦免、海援隊の結成につながる。 龍馬の斡旋で、土佐藩士としてはじめて長州藩と接触する。
明治政府 以後	<ul style="list-style-type: none"> 廃藩置県後、長府毛利家の家扶。 明治10～23 北白川家の家令。 その後帰郷。 従6位 	<ul style="list-style-type: none"> 明治2年10月、家督を養子守に譲り、その後は悠々自適。 贈位なし

両名の共通する性格は、篤実で信義に厚く、政治的野心がなかったことである。土佐では、板垣退助や谷干城、福岡孝弟、長州では木戸孝允（桂小五郎）や伊藤博文、山縣有朋等が高位高官に就くが、この両名は故郷へ帰り悠々自適の生活を送っている。龍馬がこの両名を深く信頼したのも、両名のこういう性格に魅せられていたのかもしれない。

〔講演記録〕

坂本龍馬と二十世紀 (2)

マリウス・B・ジャンセン
(プリンストン大学教授)
1991・11・14 於 高知
訳・町田宗鳳

中岡慎太郎同様、成功と勝利の絶頂期に亡くなったがために、龍馬はいつまでも若くて楽天的な人だというイメージを私達に残しました。もし、彼が老いばれるまで生き延びていたならば、私たちは彼のイメージを変えざるを得なかったでしょうし、若々しき青年龍馬の姿が彼の起り得べき晩年の人生の成否によって曇らされることも恐らくあったでしょう。例えば、もし徳富蘇峰が明治27年に死んでいたとするなら、どれほど彼のイメージは異なったものとなっていたでしょう。初期の蘇峰を見るかぎり、彼が後に国家主義者になったり、太平洋戦争中の政府支持を率先したりするということは、まず考えられなかったことです。だから、龍馬が太く短く生きてくれたからこそ、後年もしかすれば、あり得た彼の失敗や利己主義といったものに汚



▲ 平成3年11月14日（開館前日）、当館を訪れたジャンセン教授夫妻（中央）

されることなく、永遠に若く、永遠に楽天的で、弛まず努め、決して疲れることを知らない坂本龍馬としてのイメージを保ってくれているわけでありませぬ。

龍馬のはっきりした物言い、物怖じしない性格、万難を排して事を成し遂げんとする決断力は、ある程度まで彼の世代に共通した特徴と言えましょう。もちろん、彼の時代にも、他人が動き出すのを待っていて、決して不利な方には付かないというような用心深い官僚連中もいたかもしれません。実際に、大半の大名と大半の徳川譜代大名は、そのように動いたと思われませんが、敢えて自分達の本音を吐いた人間も多数いたということに、我々は深い感銘を受けます。明治初期の建白書が最近出版されましたが、数ページを垣間見るだけでも、政府指導者に対する苦情、意見、覚え書きを自分自身の頭で考え、それを社会に幅広く訴えようとしていた人々がいた事実には驚かざるを得ません。当時、新聞もラジオもテレビもありませんでしたが、人々は政府の動きに対して迅速に情報を入手し、それに対して意見を述べました。意見発表の機会を与えてくれるようなエレクトロニクス・システムの恩恵に浴せずとも、ともかく毅然たる態度で発言したことは実に驚異と言えます。恐らく近代的な官僚制や教育制度、それに軍備といったものが出現する以前に、自分達のはっきりした意見をもったエリート達が、地方にも大都市にも存在していたと考えられます。そのうち何人かは、武士であったわけでしょうが、より多くの人達は、単に地元のリーダーというに過ぎなかったのです。しかし、彼らは幕府が処理し得なかった問題と取り組みながら、確かな自信を培っていったわけです。下級郷士として、龍馬もまたそのような気質を持ち合わせていま

た。彼の仲間や庄屋の父をもつ中岡慎太郎もまた同様の人物でした。早くから目覚めていた彼等には、もはや啓蒙の必要はなく、単に発言の機会が与えられることだけが必要だったわけです。

ところで、彼等が言わんとしていたのは、果して何だったのでしょうか。例えば、龍馬が晩年を過ごした長崎での状況を見ると、それがかなり生き生きとしたものであったことが分かります。外国人の往来する長崎は、コスモポリタ的な街でした。それまでの中国人とオランダ人に加えて、アメリカ人とイギリス人も到来するようになりました。その港は上海航路の拠点でもあり、鉄砲から書物まであらゆる物が持ち込まれました。宣教師グイド・バーベックのような外国人が、日本全国から集まって来た若者達に、英語を教えたりもしていました。龍馬自身も多少の外国語学習を試みたようですが、余りうまく行かなかったようです。

このような雰囲気の中であって、彼が耳にしていた公議にもとづいて政治を行うという考えは、別の意味を持ち始めたようです。彼にとって江戸時代の身分制は余り意味を成しませんでしたし、鎖国は更に馬鹿げたことでした。通商こそが海援隊の眼目とするものだったわけです。「藩論」の如き小冊子から、近代政治と社会に関する考えが芽生えてきました。平等なる身分、代議院制、富岡強兵など、そのうち実現まで数十年かかったアイデアが、まさにこの頃に頭をもたげ始めたのです。龍馬がそれらの新しい考え方に啓発され興奮したのも無理ありません。その頃、龍馬は姉の乙女に、「姉上は、ただ家庭にいて無為につぶし、野心というものがない」と手紙をしたためております。

このような活動や考え方をしていた龍馬は、

陸奥宗光や中江兆民のような才気ある人物を始めとする知的青年グループを通じて、当時の日本で最も進取の気性に富んだ人々に接近することが出来ました。

だからこそ、龍馬は明治政府で大いに活躍するであろうと、誰しもが考えていました。結局、功績を上げ国家的殉職者にならんとするその矢先に、彼は暗殺されてしまったわけです。土佐出身であったにも関わらず、彼の人生の大半は、土佐一国のためではなく国家政治に捧げられました。しかも、龍馬の計画書通りに、将軍慶喜はその任を明治政府に譲り渡したのです。

もっとも、帝国政府が龍馬をどのように評価していたかということになれば、かなり話は違って来ます。司馬遼太郎氏は、明治政府の立場から見れば龍馬が騒乱の元凶であり、乱臣賊士であった、と書いています。自由民権運動との繋がりもありました。薩摩や長州の出身ではなかったため、彼はその功績にもかかわらず、西郷、木戸、大久保といったような教科書に出て来るいわゆる英雄にもなり得ませんでした。教科書では、それら三人の元勳から伊藤博文、山県有朋へと速やかに移行します。土佐浪人は、余りお呼びはなかったわけです。

(以下、次号に続く)

入館状況

平成4・10・6現在（開館以来320日）

○総入館者数	148,892人
○最多入館 平成4・1・3	2,552人
○最少入館 〃 3・12・17	72人
○本年度最多入館 平成4・5・4	1,937人
○本年度最少入館 平成4・10・1	93人
○1日平均入館者数	465人

「龍馬ものしりクイズ」のソフトについて

学芸専門員 岡林春雄

「やったあ、〇だ」「よくわかったねえ」とお母さんの声、1Fメイン展示室にある「龍馬ものしりクイズ」にチャレンジした小学3年生の男の子を中にして、お父さん、お母さん、お兄ちゃん、お姉ちゃんと家中でパソコンクイズを取り囲んでいる一駒である。



1991年11月15日、当坂本龍馬記念館が開館以来、1日中人だかりの絶えない展示物の中の一つにこのクイズがある。

当初は、初級の問題10問、上級の問題10問を1セットとして、2台のパソコンで提示、内容の構成を、問題提示画面、正誤判定画面、ナレーターによる解説画面としていた。

したがって、クイズの開始から終了までに初級、上級を回答すると約30分もかかってしまうため、お客様を相当にお待たせしていた。

これらを改善するために、本年7月1日からパソコンを3台に増設、クイズの種類を、青春編・友情編・躍動編の3種類として、問題数も初級・上級を各5問に縮小して龍馬についての知識の

幅を以前より更に広げることを設計の基本としてKKワードプランニングに制作を依頼した。

青春編では、龍馬の誕生から少年時代そして青年時代にかけての身の回りに関する問題、友情編では、龍馬の生涯において、彼のよき理解者や友人等その時代をともに歩んだ人物に関する問題、躍動編では、龍馬の、維新に向かって東奔西走し日本の夜明けを見ずして生涯を終わった、波乱に満ちた龍馬の人生に関する問題等で構成してある。

制作者の意欲的な取組みによってテンポアップを図って頂いた結果、時間的には従来のものと比較して、約10分程度短縮されお客様の流れも多少スムーズになったようにみられる。

問題提示画面は例えば

慶応3年(1867)4月に組織され、龍馬が隊長に任命された藩公認の組織は次のどれでしょう。

陸援隊

海援隊

奇兵隊

マウスで $\cdot\cdot\cdot$ を答えの○の中へ入れて、マウスの左ボタンを押して下さい。

途中で
やめる

のようになっており、小学校上学年位からでも挑戦できる。そして単に○×の数を競うのではなく、龍馬に関しての知識がどれくらいあるかを前もってこのクイズでテストし、クイズの中で答えられなかった事柄について、館内の展示物の中からその答えを見つけだして理解を深めていくようにこのクイズを利用頂くと、更にこの「坂本龍馬」が皆様の身近な存在として親しみが湧いてくるものと思われる。

夏休みの子供連れでにぎわった 「おーい竜馬・セル原画展」

武田鉄也・小山ゆう原作のテレビアニメ「おーい竜馬」は、NHKテレビで毎週火曜日午後7時半から放映中、9月からは龍馬の青年時代に入りました。

「今年の夏休みはアニメ撮影に使った原画の展示会を」と計画、制作のNHKエンタープライズの協力を得て、「原画」や「背景画」「キャラクター設定画」など120点のほか、2m×3mのフラフ、記念スタンプ、予告編を兼ねた総集編のビデオまで貸して頂き、1階北スペースと、らせん階段まで使って、見応えある「原画展」になりました。

7月20日から8月31日までの期間中、29,823人(小学生4,704人)の入場者を記録、まさに「アニメ効果」で、本棚の「おーい竜馬」の漫画本を読みふけるお父さん、「総集編」のテレビから動かないお母さん、スタンプ捺しに熱中する子供たちなど、館内は一日中親子連れで賑わいました。

一方ではビデオを見て「山内容堂は子供をお手打ちにしたことはない、ウソじゃ」と史実との違いを指摘するおじさんもあり、原作の筋に大いに迷惑したこともありましたが、それ以上に「海という字には『母』という字があるからボクは海が好き」という少年龍馬のせりふなど、少なからず子供さん達に龍馬ファンとしての芽生えをさそったようでした。

その影響か、それ以後子供さんの来館が増えて来ている様で、嬉しく思っています。やはり夏休みには「次の世代」に多く来てもらう企画を立て「龍馬」を理解してもらうことが大切だと思いました。(館長 小椋 克己)

開館一周年記念・龍馬まつりにあわせ 11月8日から「龍馬展」

平成4年11月15日は当館の満一才の誕生日。龍馬の手紙流に言えば「あまり大騒ぎもせず、ひそかに居り申し候」ですが、大切な記念日です。折しも、第19回龍馬まつりの期間中ですので、毎年このまつりに登場する「龍馬展」を、今回は、当館で行うことになりました。

5月に、龍馬ゆかりの展示品を入れて模様替えした地下2階の展示室を更に充実させ、高知市出身・神戸市在住の、荒尾親成さん(元神戸市立美術館、南蛮美術館館長)の貴重なコレクションから、「自然堂署名の龍馬から陸奥宗光宛の手紙」「吉村寅太郎の手紙」「桂小五郎の書軸」など、高知市民図書館からは「徳弘孝蔵門人帳と砲術演習名簿」を、それぞれお借りして展示するほか、新たに「新政府綱領八策」「父八平より龍馬への修業心得大意」「乙女宛龍馬の手紙」などを、高度の技術で複製し展示します。

そのほかユニークなものとしては、龍馬館独自に資料をまとめ、手作りで作した「坂本龍馬脱藩の道」「船中八策から大政奉還へ」「幕末維新の青春群像」「天保年間高知廓中心図」などを、1階北スペースに展示します。分かりやすい解説と筆字の温かみで、龍馬スピリット理解の助けとなることを期待しています。

スペースに限りがあり、盛り沢山の展示にはなりません、1階の常設展示と合わせ、見応えのあるものになると自負しています。

【期間】平成4年11月8日(日)～

11月23日(月)〈勤労感謝の日〉

【料金】通常の入館料がありますが、11月14日(第2土曜日)は高校生以下無料となります。

拜啓 龍馬殿

- こんにちは龍馬先生。とうとうぼくはここへやってきました。ぼくの名前は「こうちりょうま」といいます。お父さんが先生の大ファンで、男の子が生まれたらぜったいこの名前を……と決めていたそうです。

今日は、ぼくのルーツをとということで山口県（長州）からやってきました。

ぼくも先生のように、強く、そしてやさしい男になりたいです。大きな夢をもち、がんばります。

（7月23日 山口県 Y・K 男性）

- 神奈川県平塚市から、36時間かかって来たんだよ。

どーぞーの前でしゃしんとるからね。

アニメまでできててすごいですね。

私の国語の先生があなたの事が大好きで、教室に小さい像となんだか知らないけどお供え物がしてあります。今日は、その先生にも家系図ぐらいはもって行ってあげようかと思えます。

それでは、また会う日まで。

（7月28日 神奈川県 H・S 女性）

※家系図とは、当館がお持ち帰り用として作っている「坂本家・才谷屋家系図」を指している。

- 但馬から来ました。小3の時、映画で始めて貴方を知り、じ来60余年貴方に魅せられました。

当館を拝見して、いっそうその感を深くしました。消えさることのない、日本の青年の灯台です。あなたは。

（7月30日 兵庫県 S・A 男性）

- 武田鉄矢氏と同じく、龍馬を尊敬する者の一人です。既成の考え方にしばられることなく、己の考えを基に行動し、且つ深いふところを有し、人に対するやさしさを持った人物、しかし若くしてこの世を去ってしまったが、逆にみれば明治の時代をみずに死んだことは、彼には幸福であったかもしれない。

（8月5日 福島県 S・S 男性）

- 結婚半年目。主人が龍馬の事が好きで、結婚前から聞かされていました。ここへ来たのも、主人のたつての希望。

私もここで幕末を生きた人達や時代背景を見ているうちに、今なお龍馬が人々の関心を集めているのか、どうして主人がこうまで龍馬にひかれるのか、少しわかったような気がします。

（8月8日 広島県 U・W 女性）

- 日本の偉人の一人として尊敬しています。こんなすばらしい記念館ができて、龍馬もよろこんでいることでしょう。

（8月9日 栃木県 T・K 男性）

- 息子も好きですが、私もファンです。息子達には、龍馬、慎太郎と名前をつけたかった。

長男は答案用紙の名前欄に、必ず坂本龍馬と書いて出すし、先生も坂本君と呼んで答案を返す。「龍馬もお勉強全然できなかったんだよね。」（8月13日 千葉県 S・I 女性）

館だより “飛騰” 第3号

平成4年（1992）10月10日発行

発行所 高知県立坂本龍馬記念館

〒781-02 高知市浦戸城山830

Tel (0888) 41-0001